

第 1 回精華町学校給食基本構想検討会議 会議録

名 称	精華町学校給食基本構想検討会議[第 1 回]	
開催年月日 開催場所	平成 29 年 8 月 28 日 (月) 午前 10 時 00 分～午後 0 時 10 分 精華町役場 5 階 第 501 会議室	
出席者名	構成員	(出席者) 岩井三郎、円山早智子、中川茂成、仲ゆか、尾野久美子、波尻寛之 安倉敏代、谷村恵巳子、高橋幸子、森田理恵
	事務局	(事務局) 太田信之教育長、岩崎教育部長、北澤総括指導主事、竹島学校教育課長 山崎学校教育課主幹、下田管理栄養士
傍聴人	1 人	
配布資料	資料 1-1 「精華町の中学校給食実施等に向けたこれまでの検討過程」 資料 1-2 「精華町立中学校における学校給食の実施に関する基本的事項」 資料 1-3 「小・中学校の食生活についてのアンケート結果概要について」 資料 2-1 「食育の取組実績報告書 (小学校)」 資料 2-2 「平成 29 年度食に関する指導案」 資料 2-3 「すくうるらんち」 資料 2-4 「食育の取組実績報告書 (中学校)」 資料 2-5 「児童・生徒の肥満・痩身傾向児の出現率について」 資料 2-6 「精華町学校給食基本構想策定に向けた住民アンケート調査結果」 資料 3 「『精華町学校給食基本構想』策定にあたっての基本的な考え方」 ・学校給食基本構想検討会議名簿 ・精華町学校給食基本構想検討会議設置要綱	
議事の概要	1 開会行事 (教育長挨拶、委員紹介、事務局紹介) 2 座長、副座長選出 3 議題 (1) 中学校給食に係るこれまでの検討経過について (2) 小中学校の食育、学校給食の状況や中学校給食に係る 住民の意見等について (3) 策定方針について (4) 意見交換 4 その他 ・第 2 回検討会議の開催日時の確認⇒11 月頃 5 閉会挨拶	
会議の経過	別紙のとおり	

【第1回 懇談経過】

1. 開会

- ① 竹島学校教育課長の開会宣言の後、教育長の挨拶を行った。
- ② 各構成員、事務局職員の紹介を行った。

教育長挨拶

皆様方には「精華町学校給食基本構想検討会議」構成員にご就任いただき誠にありがとうございます。

また、精華町の教育行政の推進にあたりましてお力添えを賜っていることに対しまして、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。

さて、学校給食は子どもの心身の健全な発達に資するものであるとともに、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであります。現在、小学校では給食や農業体験を通じた食育の推進を図ってきており、中学校におきましても、地域の皆様方の力をお借りし、農業体験や調理実習を中心にさまざまな教育活動の中に食育の視点を取り入れ、その推進に努めているところでございます。

ところで、この間、町の教育行政の最優先課題として取り組んでまいりました、学校施設の耐震化についてですが、先の精華中学校の建て替えにより、町内すべての小中学校の耐震化が完了し、念願の耐震化率100%を達成することができました。今年からは普通教室への空調設置工事を、まずは町内の3つの中学校から実施しておりまして、来年度には何とか全小学校への空調設置工事の実現を図り、次の大きな課題であります、中学校給食センターの建設に着手をしてまいりたいと考えております。

この検討会議では昨年実施をいたしました、学校給食に関する住民アンケートや、教育委員会で事務的に検討を進めてまいりました、学校給食に関する課題やあるべき姿などの現状をご説明させていただき、この検討会議で議論を深めていただきまして、改めて中学校給食を見据えた今後の町の学校給食全体のあり方に関して、基本構想を策定していただきたいと思っております。

「食」「食べる」ということは、自分自身が生きるための原動力であり、命の源であり、毎日の活力を生み出し、何をするにも必要不可欠な、最も大切で当たり前のことであるにも関わらず、最近手軽にコンビニやスーパーでの惣菜など、出来合いのものが手軽に手に入るといった時代の変化があり、食を取り巻く環境は昔に比べて随分変わってきております。この便利さや手軽さは今の家庭事情や要請に適ったものとは思っておりますが、一方で食の乱れにより、食の大切さを感じ、感謝し、実践する力が失われているのではないかという危機感もあります。

育ち盛りの児童生徒には毎日しっかりと栄養のある食事をきっちりと取ってもらい、十分なエネルギーを体に取り込んで、心身の健全育成を図ることが大事でございます。そのためには、共働き家庭の増加や核家族の増加など、社会全体の環境も変化していることから、学校給食が果たすべき役割はこれまで以上に重要なものになってきています。同時に、こんな時代であるからこそ、なおさら各家庭での食事のあり方、食育の推進も家族全員で意識して取り組んでいく必要があるのではないかと感じております。

この検討会議におきましても、さまざまな視点から、学校給食のあるべき姿、方向性、目指すべ

き中身について、率直なご意見を賜り、お知恵をお借りできれば幸いと考えております。なお、中学校の給食の関係につきましては、平成24年度末に実施に際しての制約事項となります、基本的な3つの考え方が決定されています。1つ目はセンター方式によって3中学校同時に実施をする、2つ目は精華中学校の敷地を利用して給食センターを設置する、3つ目は精華中学校の校舎改築工事や小中学校への空調設備設置時期との調整を図りながら進めるという3つの点を定めております。このこともお含みいただいて、活発なご議論を進めていただければと願っております。

まずは事務局よりこの間の取組状況を、資料とともにご説明申し上げ、その後、皆様方からご意見や提案を頂戴し、今後の会議につなげてまいりたいと考えております。なお、この検討会議は今年度中に、本日を含めまして3回程度の協議を重ねた上で、構想をまとめていきたいと考えております。また、保護者代表の方や自治会代表の方も検討会議のメンバーに入らせていただいておりますが、ある程度構想がまとまりましたら、その時点で広く住民の皆様のご意見をお聞きするために、パブリックコメントを実施し、それらも踏まえて最終的な取りまとめをしたいと考えております。さらに、この検討会議につきまして、精華町審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして、各種の審議会と同様に広く一般住民の方にも傍聴していただけるようにしてございまして、毎回の会議録もその都度ホームページ等で公表することになっておりますので、併せてご理解賜りますようによろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方には大変ご苦勞とご面倒、またご迷惑をおかけすることもあろうかと存じますが、最後までご協力を賜りますようお願いを申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

2. 座長、副座長選出

中川構成員より事務局に一任の意見があり、承諾された。

座長に松井構成員が、副座長に波尻構成員が事務局から提案推薦され、承諾された。

3. 協議

資料1、2についての説明を事務局から行った。

(副座長)

事務局報告を踏まえ、各委員からの意見を聞く。

1. 学校給食と食育について

(中川構成員)

○学校給食と食育とは違うものである。食育の根本は食育基本法であり、全学校で食育を進めていくことは謳っているが、学校給食だけが食育ではない。もちろん、学校給食は食育に大きく関わってくるが、食育はそれだけではないことを見据える必要がある。

⇒学校給食だけが食育であるという認識には立っていない。学校給食を通じて、家庭での給食のレシピを使った献立の活用、調理実習を通じた、買物から調理、片付けまでの実践など、子どもたちが会得したものを家庭でも実践してもらえという取り組みをしている。中学校給食を始めるにあたり、さらに充実した食育を進めるためにもどのような視点で考えていけばよいのかについて、ご意見を頂戴したい。

また、児童生徒を対象としたアンケート調査を実施したところ、子どもは給食に反対しているという結果が出ている。ただ、町の方針としては、今の社会状況や多様な意見を踏まえて、給食は必要であると決定したので、子どもたちの意見を聞きながら、よりよい給食の中身になるように努めていきたい。

(中川構成員)

○子どもにとっては弁当の方が良い。その中で中学校給食を進めるというのならば、「親が弁当を作らなくて楽ができる」ということは望ましくない。長いスパンで子どもたちの健康を考え、食育の中の一つである学校給食を通じて、地域の食生活が豊かになるように広がっていかねばならない。同時に、これが精華町の給食であると全国にアピールできるものがなければならない。

⇒食育や栄養バランスの問題などはあるが、子どもたちの健やかな成長を第一にと考えている。その中で、それぞれの立場や知見をお持ちの皆様からのご意見をいただき、学校給食に活かしていきたいと考えている。

(中川構成員)

○もし精華町で中学校給食を実施するのならば、中学校となると子どもたちの体格も違ってくると同時に、食べ盛りの時期である。例えば、給食の献立をもう一品増やすぐらいの取り組みを目指してほしい。

2. 給食センターの建設による周辺住民への影響について

(中川構成員)

○給食センターの建設によって騒音や臭いの問題もあるが、配送時の交通安全対策も生徒数やセンター方式であることを踏まえて、しっかりと考えなければならない。センターを作って悪いことはないと思っているが、今までとは異なる角度から考える必要がある。

⇒我々でも気づかない部分もあるので、忌憚のないご意見を頂戴したい。また、安全管理については、その運用に際しての騒音や臭い、交通安全、学校への配送などに係る安全については考えていく。それらの視点を総合的に基本構想に入れて、よりよい給食を目指していきたい。

3. 学校給食における地産地消について

(円山構成員)

○地産地消の取り組みという話も出たが、悪天候により生産できないことも考えていただきたい。

(中川構成員)

○地産地消で地場産の野菜を30%使おうという話になっているが、精華町ではどれくらいか。

⇒野菜の年間使用量の1割程度である。農家から協力をいただいているものの、なかなか品物が揃わず、規格の問題もあるため、数を揃えるのは難しい。実態としては、地域ごとに直売協の協力をいただいている。その中で、例えば玉ねぎを100kg使用するとなると、ある小学校にはこの団体が入るという形で納品いただいている。足りない場合は、市場に頼るしかない状況である。

(中川構成員)

○国産作物の使用率の目標は8割であったが、それは達成しているのか。

⇒海外産の利用はほぼなく、京都府産のものがメインとなっている。同時に給食の質も追求していく必要があるので、安全と同時に生徒が喜ぶ給食を目指していきたい。

(尾野構成員)

○子どもと話をすると、弁当の方がよいというのは正直な意見である。弁当の方が好きなものを食べられるというのが子どもの本音である。精華町に転入し、中学校は弁当であることに驚いた。

⇒センター方式で懸念されることは、適温で料理を提供することが難しく、そのために質が落ちることである。ただし、運搬設備は改良されており、他の自治体のセンターで試食した際、精華町の自校式の給食と温かさや味はさほど変わらなかった。

4. 学校給食の時間や場所について

(岩井構成員)

○精華中学校のコミュニティ・スクールに関わっており、子どもたちと一緒に昼食を食べる機会があったが、子どもたちが昼食を食べる時間はわずか7分しかなかった。学校給食は導入してもよいと思うが、カリキュラムも見直してもらわなければならない。これまでの中学校での行動が変わるので、子どもたちに慣れてもらう方法も考えてもらわなければならないのではないか。

(岩井構成員)

○精華中学校の改築には感謝しているが、給食を見据えた校舎の建て方にしてほしかった。岐阜県の中学校では、皆が集まって食べているような部屋があった。食堂であると同時に集会もできるランチルームのようなものがあればよかった。

⇒ランチルームのような、施設に関する内容はすぐに取り組むことは難しいと思うが、例えば自分で食材を選んで作るということで弁当の日を設定するといったことから取り組んでいけると考えている。給食のあるべき方向性の中で、そのような取り組みも想定していきたい。

(岩井構成員)

○過去に、学校給食に地域産を取り入れるということで、6.5ha分の耕地面積でL玉の玉ねぎを作ってくれと頼まれたことがあった。その際、高齢者世代のリハビリも兼ねた一次加工の取組により、大小のあるものを加工してもらって、それを精華町の学校給食に使ってもらうことはできないのかと尋ねたところ、それはできないと言われた。衛生面や人の関係、調理のスピードに問題があるということだが、それは地場産のネックであるため、どこかで買ってきてくださいと言わざるを得なくなる。お米だけで地域産の3割を賄うのではなく、すべての食材での達成を目指してほしい。その際には、農業委員会ではなく、精華町の農家にどのように浸透させていくかを考えなければならない。センター方式になると使う量も増えてくる。

⇒関係部署等と調整させていただき、いろんな方に学校給食に関わってもらえるようにしていきたい。衛生面や人の問題で使用できなかったということについても、使用できるようになるシステムなどを調べていきたいと考えている。

(安倉構成員)

○弁当だからといって健やかな成長ができないわけではない。栄養バランスを考えられた弁当が用意されているのを学校で目の当たりにしている。また、弁当が親とのコミュニケーションに役に立っているということも聞いたことがある。

(安倉構成員)

○放課後には部活動や補習、委員会活動などがあるが、15時55分に授業が終了し、最終下校時刻は18時である。日が短くなると16時30分に下校となるが、昼食を食べる時間が20分、昼休みが

10分の計30分で子どもたちはご飯を食べ、5時間目の準備をする。他校の状況を聞くと、やはり30分プラス5分～10分は時間があるので、こちらでも時間を捻出しなければならないという課題がある。食育の観点を持って給食を導入するにあたり、急かしてご飯を食べさせるのではなく、コミュニケーションや役割分担など、食育の観点から大切にその時間を活かせるよう、今後の校時表を考えなければならない。

(谷村構成員)

○現場の意見として、大半の子どもは家庭からの弁当を食べているが、私のいる学校ではパンの販売をしている。朝8時30分までに登校して注文表に記入すれば、12時過ぎにパンを受け取るシステムであるが、毎日パンの注文をする子もいる。そのパンは美味しいので子どもも喜んではいるが、それに頼っているご家庭もある。そういうことも踏まえると、全員が同じものを食べられる給食はよいと考えている。自分たちで配膳して食べるという経験もできるため、給食導入が食の広がりを経験する機会になるのではないかと考えている。

5. 学校給食のアレルギー対策について

(谷村構成員)

○センター方式については、アレルギー対応が気になる。食べたことのないものを見て、食べて大丈夫なのかどうかの判断ができなかったケースや、保護者の方が気をつけて弁当を作っても、アレルギーのある食材を入れてしまったケースもある。学校側としても指導も含めて、安全対策を考えていかなければならない。

⇒アレルギーの問題は避けて通れないものであるため、対応等についても基本構想で記載したい。

(森田構成員)

○小学校給食について、昨年度から品目は限られているがアレルギーの除去食を実施している。中学校給食が始まれば、同様の対応ができると考えている。

6. 小中学校を通じた食育について

(森田構成員)

○中学校給食が始まると、9年間を通じた食育が可能となり、自分の体を守るためにはどうしたらよいかについての、より深い知識を体得できるのではないかと考えている。アレルギーに関して、今の小学校で行っている危機管理の方法なども、さまざまな課題は出ているが、中学校にも伝えることはできる。何よりも、成長期の子どもにバランスの取れた食事を提供したいという思いがある。みんなと同じものを食べることで、苦手なものも食べられるということを中学生までの間にしてもらいたいと思っている。

(仲構成員)

○保育園でも小学校でも、いつも美味しい給食が提供されていると思っているので、感謝している。保護者としては、弁当を作るとなると、どうしても朝食が手抜きになってしまう。また、子どもの習い事の関係で夕食と一緒に食べられないこともあるので、せめて朝食は家族揃って食べたいという思いがある。保護者が夜勤の場合、自分で弁当を作る子どももいるが、冷凍食品を詰めて持っていくという話を聞いている。センター方式については、自校式とそれほど変わらないということに安心した。

(高橋構成員)

○精華町には「食育推進基本方針」というものがあり、関係課がそれぞれの計画に沿って食育を推進している状況である。その中で、今年が町の健康増進計画の中間見直しの年であるということと、第3次食育推進基本方針の策定年である。その関係で、食の現状についてのアンケートを取った結果、若い世代の朝食摂取状況や栄養バランスを考えた食事を食べる方の割合が非常に低くなっていた。行政としては、小学校、中学校、高等学校の学生との接点が少なく、先生方にお任せしている状況になるが、6年間を通しての食育でなく、9年間の食育ができるとなると、それぞれの年齢に沿った食育推進ができるようになり、お弁当にはお弁当の良さがあるが、感謝の心や食事のマナーなども身につけてもらうことができるので、よいのではないかと考えている。

(波尻構成員)

○給食委員会では他校の取組や状況を確認しながら、子どもたちによりよい給食を提供していく、あるいは子どもたちの栄養バランス、健康な身体を作っていくということで、他校と交流させていただきながら、よりよい食育、給食につなげていきたいと考えている。また、京都府全体での給食の会議もあるので、そこで精華町の取り組みを報告しながら、京都府レベルでも食育推進に取り組んでいきたい。

資料3についての説明を事務局から行った。

7. 防災面からみた給食センターについて

(岩井構成員)

○今までは安全だと思われていた地域が大災害にあうことが多くなってきた。給食センターの穿設される地域は震災に強いと思うので、被災された方に向けた配膳もできるような施設にしてほしい。

8. 学校における食育と農業について

(中川構成員)

○精華町の小中学校は農業委員会が10年以上前からバックアップしており、田んぼを提供して、米作りなどのさまざまな体験学習をしてきている。このような市町村は多くないはずである。子どもたちにも話をしながら、関係者にも理解していただいて、農業委員も忙しい時期でも田んぼを提供してやっている。密接に学校とつながって食育の実践をやっているというベースがあることをご理解いただきたい。

4. その他

次回の審議会は11月ごろを予定している。調整の上、連絡させていただく。

5. 閉会